

10/21(火)の 新月の夜に、彗星と流星をながめよう！

～月明かりがない、新月の夜は絶好の観測チャンス！～

10/6は中秋の名月で、雲間から、美しい満月（実際の満月は10/7）を楽しむことができましたが、月明かりは眩しく、星座の星たちは月の明るさに負けてしまいますので、星座や星を見るには、新月の夜が良いです。

そして、10月の新月(10/21)の日は、ちょうど「オリオン座流星群」の極大日になります。出現する数は、1時間に10個程度と多くはありませんが、見つけやすいと思います。

さらに今年発見された「レモン彗星」と「スワン彗星」という2つの彗星が明るさを増してきており、10/20と21が地球に最接近をするので、絶好の観測チャンスとなります。

「レモン彗星」と「スワン彗星」と「オリオン座流星群」のトリプル観測に挑戦

予想される彗星の明るさは、レモン彗星が4等星、スワン彗星が6等星で、街灯りが邪魔になりますが、清瀬の空でも、目を凝らすと、肉眼でも確認できる可能性があります。双眼鏡を使えば、より観測しやすいです。肉眼で見えなくても、デジタルカメラやスマホのカメラを三脚などで固定して星空モードで撮影すれば、映る可能性は高いです。彗星と流星のコラボが見られるかもしれません。

両彗星とも、夜空を日に日に移動していますので、観測できる位置も時間帯もかわります。現在、地球から見て、太陽の方にいますので、日の出前の東の空か、日の入り後の西の空になります。

「スワン彗星」 最接近日 10/20(月)



2025年9月に、太陽観測衛星SOHOのSWAN装置で発見されました。この装置では他に彗星を発見しており、全部SWAN彗星という名称で呼ばれています。10/20(月)に地球に最接近し、6等星くらいの明るさになります。この日は、日没後の南南西の高度30度に見えます。

「レモン彗星」 最接近日 10/21(火)



2025年1月に、アメリカのレモン山天文台で発見されました。10/21(火)が地球に最接近し、4等星まで明るさが増すとの予想です。この日は、日没後の西北西、高度10度くで、雲が気になります。

「オリオン座流星群」 極大日 10/21(火) オリオン座は、夜遅く東の空に昇ってきます

星座図での姿は、左手に盾（ライオンの毛皮）を持ち、右手でこん棒を振り上げている姿ですが、その右手付近に放射点があり、赤い一等星ベテルギウスの右上付近から、四方八方へ流れていきます。

オリオン座流星群の母彗星はハレー彗星

流星群の多くは、彗星が太陽に近づいたときに溶けて、軌道上にはらまいた塵（小石など）で、もとになった彗星を母彗星と呼びます。オリオン座流星群の場合は、春のみずがめ座流星群と同じ、あの有名なハレー彗星です。ハレー彗星は大型で、毎回大きな尾が出来て、ハッキリと肉眼で見ることができます。1986年の前回は、4等級位まで明るくなりました。公転周期は76年で、生涯に1度は見ることができる彗星ともいわれています。次にやってくるのは36年後の2061年夏で、皆さんが50歳頃です。軌道の条件が良く、0等級位まで輝くのではと予想されています。楽しみです。

